

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有
〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up, TOHOKU!

2020年(令和2年)5月16日 土曜日

無料

第96号

毎月発行

発行 2020年(令和2年)5月16日 土曜日

【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、66歳、新人の歴史ドキュメンタリー作家。現在、日本刀の真のルーツを発掘した映像【鬼がつくった日本刀】を上映計画中だが、新型コロナウイルスによる延期を余儀なくされている。趣味は古代史・埋もれた歴史を掘り起こすことと東北から日本を変えることを標榜。



新型コロナ禍を踏み台に 東北再興の道を探る提言 国内回帰企業と医療産業の受け皿に！

新型コロナ感染者が 特に少ない東北

新型コロナウィルス感染の都道府県別発生者数を見るたびに、東北の感染者数が特に少ないことを確認してほっとする。

特に岩手県はいまだに感染者ゼロ。東京都の感染者数に比べると段違いの異次元の格差であり、ほんとうにすごいことである。

岩手県の知人に聞くと、最初の感染者には絶対になりたくないといふ神経質になっているという。

他県からの越境者にも神経質なようで、高速道路で他県ナンバー車を全員検診して、ウィルス陰性を確認してから通過させたいとも言っている。

山形県では現実にはそれを行っているようだ。

新型コロナ禍で東北 が見直される

東北の過疎が叫ばれてから久しい。しかしこのことが今般の新型コロナ禍には、

まことに逆説的だが、有利に働いている。

大都市圏では「密閉」「密集」「密接」の「三密」を回避することが大変な努力を要するものであるが、東北では、幸か不幸か、「三密」が初めから回避されている現状がある。

これは体験してみないと実感できないことだと思う。東北在住の方のお叱り覚悟で言うが、東京圏では外出しなければ「三密」となるが、東北のいなか町では普段から「三密」とは無縁である。むしろ「三密」の方がめずらしいのではないか。

だから、全国緊急事態宣言が出て、不要不急の外出を控えるように言われても田舎では外出したところで「三密」など発生する状況はまれであろう。

しかし、このことが東北が見直されるきっかけになり得ると筆者は考えている。

あまりにも大都市圏に集中しすぎたいびつな人口構造が注目され、地方に移動するといふ、これまでの流れと逆行する人口調整が、新型コロナ禍を契機に開始される機運が高まってくる予感がある。

そしてそれは特に、新型コロナ禍を無事やり過ごしている東北に起る可能性がある。

東日本大震災発生から九年。その後あちこちで大災害が発生し、東日本大震災が忘れられてしまったと一時は嘆いたが、今度はそのことも有利に作用するかもしれない。

メリットの無くなった 大都市生活

大都市圏で生活するメリットのひとつに経済的な理由がある。

すなわち、大都市圏には雇用がたくさんあり、そのため高賃金で働けるということがあった。そのため、「三密」でありながらも、また、高い家賃、長時間の通勤なども仕方ないとあきらめていた。

しかし、新型コロナ禍でこしばらく雇用は大きく減少するのは確実とみられている。

そして補助金が出たとしても、平均賃金は急激に落ち込み、高い家賃は大変な重荷になってくる。

おまけにリモートワークも強制されていく。大都市圏に住む理由が消えていく地方にいてもリモートワークなら可能である。

こうなると、これまでの大都市圏で暮らすメリットの主要部分が消えてしまうのである。

実は、この大都市圏のメリット喪失は、新型コロナ禍発生前にも気づかれていたのだが、今回の件で拍車がかかるのではないかと、それが一挙に噴出する可能性は十分にあるのだ。

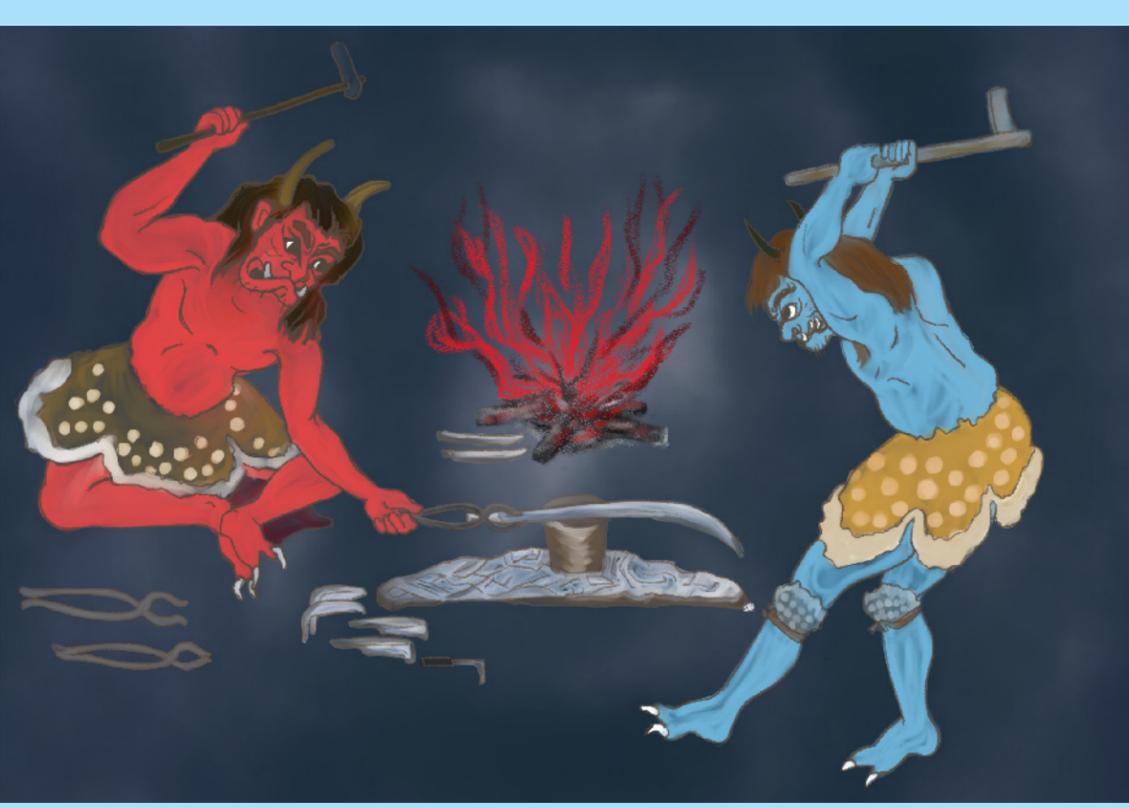
東北の人口減少から 人口増加へ大逆流

東日本大震災発生以前にもたらだらと東北の人口流出が続いていた。

それがあの震災で拍車がかかった。特に被災地の流出は目を覆うばかりであった。それが止まる。止まるだけでなく、逆に増えるという可能性が開いてきた。いわば東北への「人口大逆流」である。

「鬼がつくった日本刀」

約千三百年前、東北の地から全国に連れ去られた多くの奥州刀鍛冶たちがいた。しかし「鬼」と蔑まれ、苛酷な労働を強いられながらも、数々の名刀をつくり続けた。だが古代から中世にかけての日本刀の名工といわれた刀工のほとんどが奥州刀鍛冶の流れを汲んでいたにもかかわらず、その後すっかり忘れ去られてしまった。



埋もれた歴史を発掘するドキュメンタリー
【鬼がつくった日本刀①】

策はあるが、人口増大ほど有効な方策はないと筆者はかねがね思ってきた。

その大チャンスが訪れようとしている。

人口が減り続ける地域には未来はない。いずれ消滅する。それを良しとするなら別だが、人口増大のためには多少のデメリットには目をつぶるべきだと筆者は思う。

田舎の排他性を失くせ

ところで、田舎を嫌って大都市圏に脱出する理由の大きな要因といえば、田舎の閉鎖性が挙げられる。

これは東北に限らず、日本全体に見られることであり、日本だけのことでない。

これを何とか修正すれば「人口大逆流」は起きると断言しよう。

筆者も田舎育ちなのでよく分かるが、田舎の閉鎖性には閉口する。

東日本大震災発生後のボランティア活動をする人間にも聞いたことがあるが、大震災で壊れた家屋や氾濫したごみなど、上辺の整理だけ手伝わなければならない。集落の根幹に関わることに一切触れないで欲しいという話も聞いた。驚いたという話を思い出した。

その他にもよく聞く話だが、真剣に東北のことを思うならば、東北に住みついて真剣に取り組んで欲しい。それから発言しろと。そうでなければ本物ではないと。

ない。

田舎の人間はそれが当然と考えているようだが、大都市圏でそうしたことを言う人間はいない。

それから、田舎の慣習に従えと。それが身に付くまで仲間と認めないなど、排他的な要素は多々存在する。これが無くなったら、大都市圏からの人口移動は奔流となって東北の姿を変えていくだろう。

新型コロナウイルス感染者の流入に神経質になるあまり、他県ナンバー車の排斥などもってのほかである。

「大都市からの人口受入特区」設置のすすめ

筆者はかねがね、東北の人口を増やす装置としての「特区」構想を持っていた。

それは、田舎の閉鎖性を極力排除した「特区」である。

これをあちこちに設置し、大都市圏から流入する人々の受け皿にするというものだ。

どうしても田舎になじまなければ仲間に入れないという強硬な姿勢のままでは、せっかく移住してきた人々も逃げ帰ってしまうだろう。移住希望者になるべく、それまでの暮らしから大きく変化することを強制されない仕組みが求められる。「特区」を良く思わない田舎の住人も出てくるかもしれないが、それは「人が減ればまちは消滅する」「それは何が何でも回避しなければならぬ」という揺るがない共通認識で乗り越えなければならない。

変わる世界、東北はどう対応するか？

とはいえ、東北全体が、大都市圏からの移住者に何の仕事も用意せず、ただ単に「特区」に住めといつても無謀な話である。

やはり雇用を創出しなければ空理空論に終わる。

しかし、ここにも東北に大きなチャンスがやってくる。

視野を国内から海外に移してみると、新型コロナ禍により、従来の国際経済の枠組みが大きく変わろうとしていることに気づく。

それを東北復興から東北再興へと活かせないものかと思うのである。

何がどう変わる？

前号でも少し触れたが、あらためて整理してみると、まず行き過ぎた国際分業体制は大きく変わり、これまで海外で生産していた物品の国内回帰が起きるだろう。

次いで医療品の自国防衛体制整備が加速するだろう。

マスク不足は世界中の大問題となったが、それだけでなく、人工呼吸器、ウイルスワクチン開発のための原料生産などが、他国、特に中国にほぼすべて依存していることのリスクに多くの国が警鐘を鳴らし始めている。

この分野も国内回帰を余儀なくされていくのは事実だ。

それから、雇用者から見た、産業構造の変化が避けられないだろう。

まず、観光産業は大打撃を受け、特に海外からの観光客回復には大分時間がかかるだろう。

この点で出遅れていた東北の被害は他地域に比較すればの話だが軽症で済む。飲食業も回復にはかなりの時間がかかるだろう。

少なくとも、これら三つの要素においても、雇用者の大移動が起きる可能性がある。

すなわち、これらの分野で大量の失業者が発生して、新たな職を求めていくが、現状の枠組みでは受け入れ不可能である。

どうしても新しい産業と新たな雇用創出が求められてくる。

先ほど触れた、海外からの国内回帰事業と医療産業がその受け皿になれるだろうか。

東北の産業政策

では、東北では国内回帰事業に対してどのような姿勢で臨むのだろうか。

また国内での医療産業創出可能性に対してどのような対応するのだろうか。

筆者としては、ここに真の東北復興、いや東北再興の可能性を感じるのであり、ぜひ東北六県が合同して、積極的に産業誘致活動をして欲しいと思う。

そこには、前述の「特区」

埋もれた歴史発掘ドキュメンタリー【鬼がつくった日本刀】の上映日程 3度目の延期のお知らせ

東大和市会館ハミングホール 「小ホール」
(〒207-0013 東京都東大和市向原6-1)

西武拝島線「東大和市駅」より徒歩7分

2020年7月4日(土) 上映開始10:00

2020年7月22日(水) 上映開始19:00

* 5月27日の三度目の延期での代替日程

埼玉県SKIP CITY 彩の国ビジュアルプラザ 映像ホール

(〒333-0844 埼玉県川口市上青木3-12-63) JR西川口駅よりバス9分

当面の間、上映未定

上映時間：約60分

入場料：500円(税込) 全席自由席

DVD - 3月下旬販売開始

3300円(税込) 送料無料

解説本(カラー) - 5月販売予定

問合せ先：株式会社遊無有

mail: y.s.yumuyu@ozzio.jp

も含めたセットで、各企業に積極的に働きかけて欲しいし、創業の仕組みづくりにも積極的に取り組んで欲しい。

国の統制下ではなく、民間との強力タッグで

この時に十分に注意しなければならぬことがある。それは国民からの信頼を喪失しかけていく中央の出口を待っているのはだめだということである。

さらには、国の補助金などをあてにしてもダメだということである。

そんなことをしては時流に乗り遅れるのは確実であり、それは今般の新型コロナウイルス禍への対応をつぶさに見れば容易に分かることである。

必要なのは、民間と強力なタッグを組んで迅速に推



埋もれた歴史を発掘するドキュメンタリー【鬼がつくった日本刀②】



第69回

水産業再興のための
料理レシピ紹介

【イカの味噌和え】
日本酒飲みたくなる！

今年はイカの回遊
を期待してます。
(by 松本)



郷土料理愛好家
松本由美子氏

—材料— イカ 200g、味噌 大さじ2、みりん 大1、酒 少々、砂糖（辛くない味噌ならば大さじ1～2）

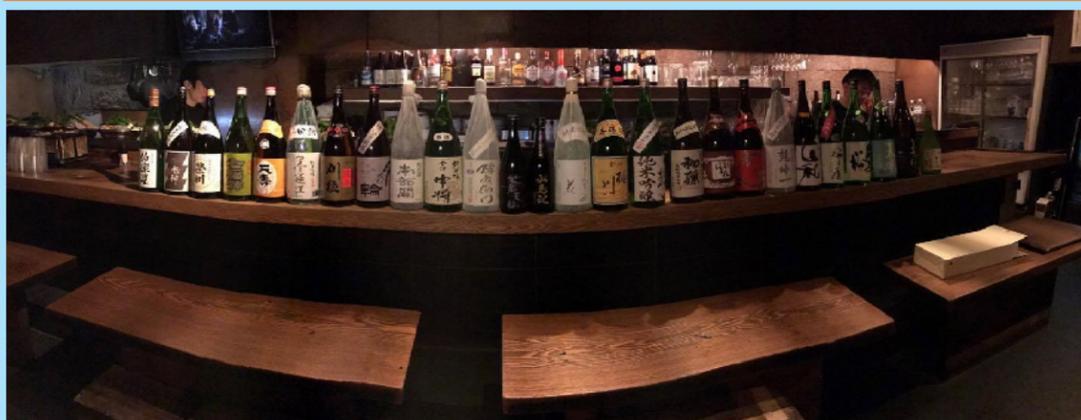
—作り方—

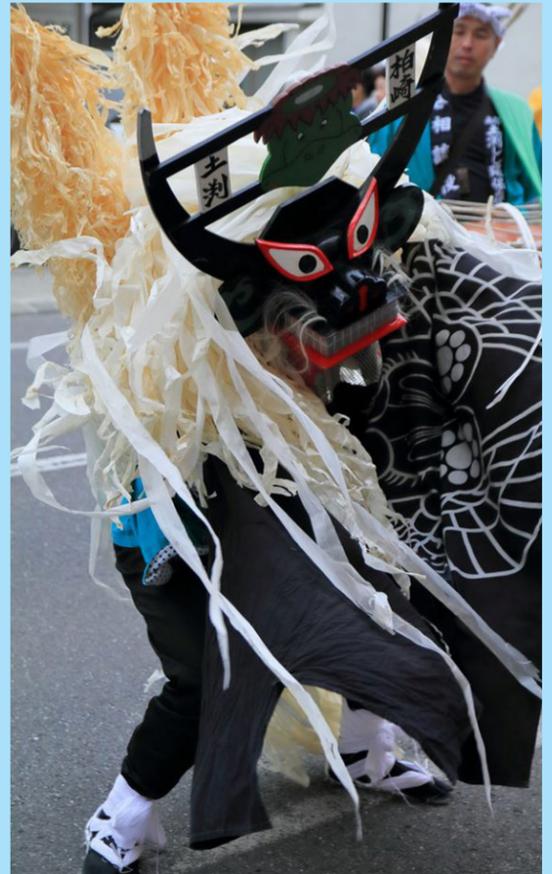
- ① イカは軽く塩でもみ洗います。食べやすい短冊にカットしておきます。
- ② 調味料を合わせイカと和えます。2、3日まぜながら寝かせて出来上がりです。

ほんに恋しや、東北地酒！いつになれば飲めるやら？

【依然として第43回三陸酒海鮮会代替日程未定のまま】

延期を余儀なくされた3月14日の三陸酒海鮮会は、依然として代替日程が未定のまま推移しております。美味しい東北地酒への恋しさが狂おしいほどに募っておりますが、みなさま、しばし我慢ですぞ！以前の写真画像のみで何とか耐えてください。またお会いできる日を楽しみに！





写真でお伝えする 東北の風景

コロナウィルス退散!
遠野鹿踊

写真撮影 尾崎匠



「東北・新潟緊急共同宣言」は現代版「奥羽越列藩同盟」か

七県二市による異例の宣言

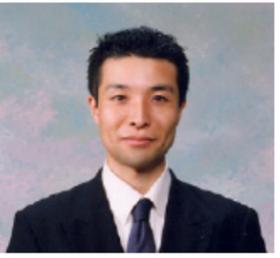
新型コロナウイルスの感染拡大防止を巡って、五月の大型連休前の四月二四日に一つの動きがあった。「東北・新潟緊急共同宣言」の発表である。この宣言が画期的だったのは、その名の通り、県境を越え、東北六県と新潟県の知事、それに政令指定都市である仙台市と新潟市の市長による共同宣言だったことである。過去、このような七県と二市が共同で何か事を為したことがあったかと考えるとまったく記憶にない。それだけこの新型コロナウイルスの感染拡大が脅威だということなのだろうが、ともあれその意味でも異例のことである。

又感染症に関する「緊急事態宣言」の対象地域が全都道府県に拡大されたことを受けて、「私たちは、感染拡大の防止と早期の終息を目指し、不転の決意で、地域一丸となって取り組んでいくことをここに宣言します」とした上で、大型連休期間を前にして、改めて①外出の自粛、②事業者における感染防止対策の徹底についての協力を求めている。

①については、「東北・新潟県の圏域内での往来や関東・関西方面等他地域との往来、旅行・帰省等を含め、都道府県をまたいだ不要不急の移動の自粛」を求め、「繁華街の接待を伴う飲食店等への外出自粛」は特に強く求めている。また、通院や生活必需品の買い物等のために外出をする場合は「三密(密閉・密集・密接)を避けることを徹底」するよう呼び掛けている。

執筆者紹介

大友浩平 (おおともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
http://blog.livedoor.jp/anagna51/



Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.ootomo

②については、「在宅勤務や時差通勤など人と人の接触の機会を低減する取組」、「従業員や取引先、利用者に対する感染防止対策を確実に実行」、「発熱等の症状が見られる従業員の出勤停止」等の徹底を求めている。店舗等においては、「利用者が密集しないよう工夫するなどの感染防止対策」を求めている。

内容を見ると分かるように、七県の県民に向けての協力要請であるのだが、七県二市という大きなまとまりでの共同宣言は大いに注目を集め、マスメディアなどでも取り上げられたので、首都圏など大都市圏から東北・新潟各県への、旅行や帰省などによる人の流入を減少させる効果もあったものと思われる。

「共同宣言」が出された経緯

この「東北・新潟緊急共同宣言」、ネット上でも話題になっていった。東北六県だけでなく、新潟も足並みを揃えていたことが目を引いたらしく、「奥羽越列藩同盟だ」とする書き込みもあつた。東北六県と新潟県が一緒に行動したことがやはりインパクトとなったようである。

そもそも今回のこの共同宣言、どのような経緯で出されたのだろうか。その経緯についてはマスメディア等では報じられていないが、各県のサイトで知事の記者

会見録などをチェックしてみたところ、発端は山形県の吉村美栄子知事であることが分かった。

吉村知事の記者会見での発言によると、四月一五日に開催された山形県内の医療専門家会議において、複数の専門家の方から、東北全県が県境を越えて連携し協力して取り組むことが有意義なことだとの提案があつたという。それを受けて吉村知事がその提案のことを宮城県村井知事に伝え、みんなでやりましたよ」ということになつたとのことである。

吉村知事は記者からの質問に対して、緊急事態宣言の対象区域が全都道府県に拡大され、県境を越えての移動・往来を避けることが求められたことに対して、隣同士の東北六県、新潟県と協力して取り組むことはより大きな発信となつていくかと思つた、とも答えている。

この記者会見では、今回のこの共同宣言の文案が東北の知事会の幹事県である青森県によつて作成された、その後各県で調整したという点も明らかにされている。また、東北六県に新潟県が加わつた経緯については、知事会の東北ブロックには、ずっと以前から東北六県に新潟県も入つており、東北観光推進機構で外国に東北のPRに行く時

新潟の「帰属問題」

も新潟も一緒だつたということなどを例に挙げながら、この七県の枠組みというのは「昔からの伝統的な枠組みだ」というふうに捉えている」と吉村知事は語っている。

よく話題になるのが、この新潟がどの地方に属するかという、新潟の「帰属問題」である。日本の地方区分として最も一般的な八地方区分では、新潟県は中部地方に属する。中部地方は九県からなる大きな地方であるが、地域として一体感があるかと言え、必ずしもそうとは言えない。そこで中部地方はよく、さらに北陸(石川、富山、福井)と甲信越(新潟、山梨、長野)、東海(岐阜、静岡、愛知)に三重(加わる)に分けられる。ここでは新潟は甲信越地方に属することに

なる。ただ、北陸に新潟が加わる場合もある。東北に新潟が加わる例としては、戦後のいわゆる「東北開発三法」における地域区分、全国総合開発計画や国土形成計画における地域区分などが挙げられる。地方行政連絡会議法で規定される東北地方行政連絡会議にも新潟県が加わっている。新潟県が加わつた東北と東北六県を区別するために、東北六県の場合を東北地方とし、新潟が加わつた七県の場合には「東北圏」と呼ぶ場合もある(国

土形成計画など)。なお、新潟は「東北・新潟緊急共同宣言」が発表されてから四日後の四月二八日、今度は長野、山梨、静岡と共同で、「中央日本四県知事共同宣言」を発表している。こちらの共同宣言は、他地域の人の向けて、四県の観光地への来訪の自粛を強く要請するものであつた。ちなみに、「中央日本四県」とは、「日本の中央に位置する新潟県、長野県、山梨県、静岡県」のこと、これら四県は平成二六年度から、知事同士が意見交換を行う「中央日本サミット」を開催し、四県合同の移住相談会や観光PRなど連携した事業を展開しているそうである。「東北圏」だけが新潟の立ち位置ではないということが分かる。

一方、歴史的には北陸三県との関わりが深い。現在の福井から新潟までは古来、「越国(こしのくに)」と呼ばれる一つの地域であつた。福井が越前、富山が越中、新潟が越後と呼ばれるのも大宝律令制定後の七〇四年以来一貫しており(その後越前から能登と加賀が分立)、地域的なつながりはこちらのほうが強そうである。

今回の「東北・新潟共同宣言」が出された後、こうした新潟の「帰属問題」がネット上でも再燃していた。当の新潟の人は実際どう思っているのだろうか。マイナビニュースが二〇一五年に新潟県の会員に「新潟県はどの地方に属していると思いますか」と聞いたところ、最も多かったのはやはり北陸地方(三六・七パーセント)で、次いで中部地方(二七・五パーセント)、甲信越地方(一九・三パーセント)、東北地方(二・八パーセント)、関東地方(三・七パーセント)の順であつた。一方、Jタウンネットの二〇一七年の調査では、「新潟県は『何』地方?」との問いに、新潟県の答えで最も多かったのは北信越(三七・六パーセント)で、次が何と「独立」で二四・八パーセント、三番目が北陸地方(一八・〇パーセント)という結果であつた。

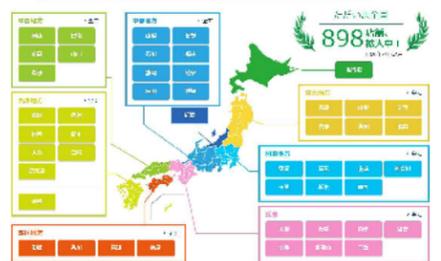
今後東北と新潟は緊密な連携を

地図を見ると、東北地方に新潟が大きく食い込んだ形になつている。そのため、新潟と東北は非常に長い距離で接している。具体的に、福島と新潟はおよそ一六〇キロ、長野と新潟もおよそ一四五キロ接しているが、山形と新潟も約一三〇キロ接している。群馬と新潟は約九〇キロ、富山と新潟が約三〇キロである。こうして見ると、東北とは緊密に連携していきたいものである。

近接感はずしも多くあるとは言えなさそうである。先の新潟が地域として独立しているという答えの多さに配慮したというわけでもないだろうが、「ハードオフ」の店舗検索ページでは、新潟が中部地方にも入らず、独立した形になっている。この地図を見てみると、確かに新潟一県で一つの地域とも見えてくる。北東は東北、南は関東、南西は中部地方と接し、多様な地域にアクセスできる新潟の特色が見える。東北が新潟と共同歩調を取る場合、それはガチガチの構成メンバーとしてではなく、こうした特色を踏まえた准メンバーとして参画を乞う、というスタンスがよいのではないか。今回の共同宣言のように、何か事を起こすに当たって、東北六県に新潟も加わつてもらうことでより大きなインパクトが得られるということが期待できる他、必要があれば新潟に仲立ちしてもらうことで甲信や北陸などコラボレートする道も開けてくる。東北地方の一部とは思っていない人が多数という事実を踏まえつつ、東北としてはこれからも新潟とは緊密に連携していきたいものである。

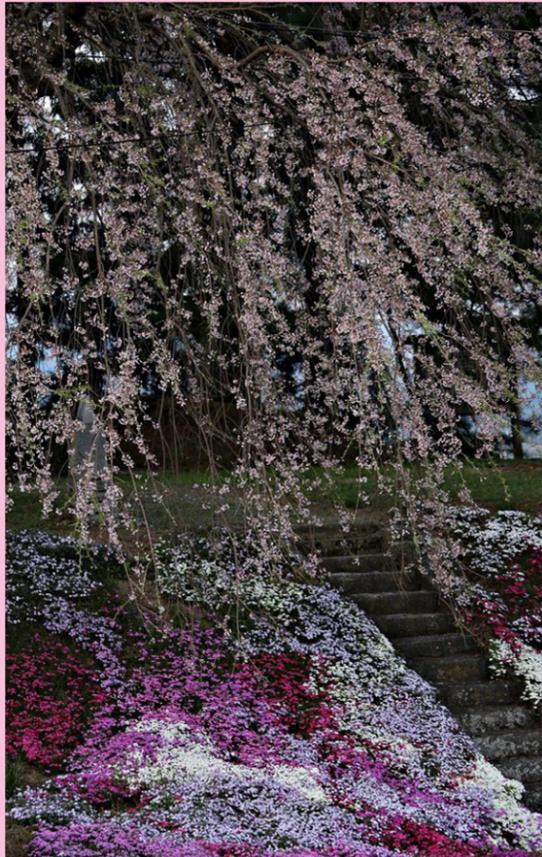
五月九日追記

五月八日に、東北六県と新潟の知事と仙台と新潟の



ハードオフ店舗網

市長による「東北・新潟共同メッセージ」が発表された。本文で取り上げた「東北・新潟緊急共同宣言」に続くもので、「心をひとつに故郷を守ろう」とのサブタイトルも同一である。内容は、「私たちの地域においては、外出の自粛や感染防止対策の徹底により、新規感染者数が減少傾向となつてまいりました」と、これまでの県民・市民の対応を評価すると共に、国の「緊急事態宣言」が五月三一日まで延長されたことを受けて、再度のまん延や医療崩壊を防ぐために引き続きの協力を要請し、「東北・新潟が一丸となつて、新型コロナウイルス感染症の終息に向けて取り組んでまいりましょう」と呼び掛けるものとなつている。具体的には、今回は「県境をまたぐ移動等の自粛の継続」と共に、新たに「三つの密」を避ける、手洗いやマスクの着用、人と人の距離の確保、在宅勤務・時差出勤などの「新しい生活様式の定着」を要請している。



シダレザクラとシバザクラ



2人のお花見



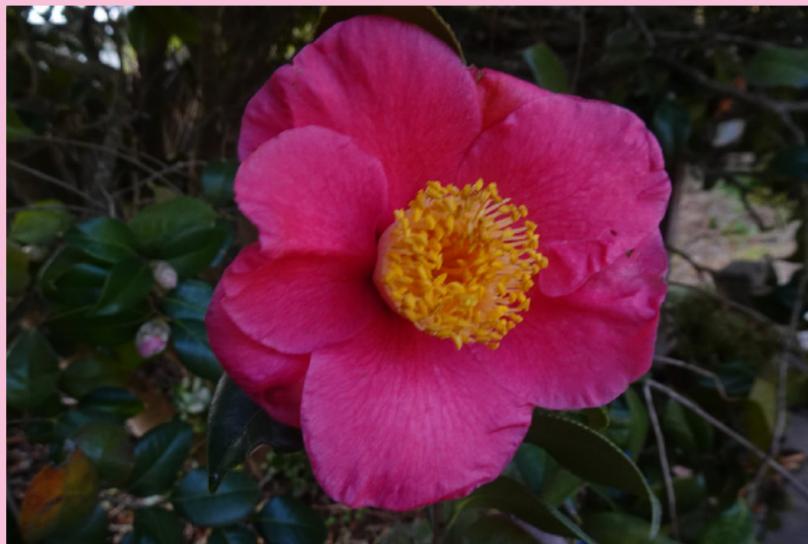
サクラと鯉のぼり

シリーズ 遠野の自然
「遠野の立夏」
遠野 1000 景より

岩手県は、この記事執筆
中も、国内唯一の感染者ゼロ
県続行中である。すごい
ことである。このままゼロ
を守り抜いて欲しいが、万
が一感染者が出てもがっか
りしないで欲しい。
東京圏はそろそろみな自
粛に飽き飽きしてきたよう
だ。目標無き自宅待機も確
かにつらい。みなイライラ
の極限に近づいている。
ただ、第二波で感染者が
増加して自粛再要請となっ
たら言うこと聞くだろうか
とても心配である。
それはともかく、都内の
花見は自粛だったので、遠
野でたった二人で花見する
写真はともうやましい。
せめて紙上で遠野の咲き
乱れる花々の花見と行こう。



マメザクラ



ヤブツバキ



サザンカサザンカ



お六とサクラとスイセンと



クリスマスローズ

有害な中央集権から真の地方分権へ 危機におけるリーダー論、再び！

国民が知りたいのは、いまどこにいて、どうなっていて、近未来がどうなるか、それを端的に示すこと！

新型コロナウイルス禍とリーダーとの関係について、前号で言い足りなかったので、引き続き危機時のリーダーについて書き記そうと思う。さらにそこから進んで、このまま「中央集権体制」で良いのかについても思いをぶつけてみたい。

いま一番の危機は別次元に存在する

クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号での新型コロナウイルス感染症発生により、新型コロナウイルス禍が国全体の大問題との意識が共有されてから、早や三月半になるうとしている。

しかし、あのときから状況が目に見えて改善されたかといえばけつしてそうは

思わない。まるでスローピ

デオを見ているかの如く、三か月半前と何も変わっていないと感じる。わずかに四五日しか経っていないのではないかと感じるのだ。

単刀直入にいうと、この新型コロナウイルス禍に置かれて日本の最大の危機は、国民を「適切に、スピーディーに」ひとつにまとめ、けん引していくリーダーがもとの見事に不在であることが誰の目にも明らかになったことである。

そのためこの国全体が右往左往し、それぞれが勝手なことを言い、行動し、バラバラであるというのが実態であるとはつきり言おう。その状態は、この状況を引き起こした原因である新型コロナウイルス感染症問題そのもの以上に大きな問題である。国民もそのことに気づき始めた。

与党も野党も

国会審議、予算委員会審議などを聞いてみると、国民の一人としてほんとうにっかりするということと野党も野党の議員たちも理解していないだろうと感じる。従来の枠組みから出ていない。三か月半以前の何もなかった時と同じやり方であり、国民の大多数の意識と完全に断絶している。もう国会活動は時間とお金の無駄と見える。

皆の思いは、次の選挙の時、今回の「がっかり」を反映させてやろうと静かに心に決めていることだ。

「前例に倣う」は無用

各省庁を統轄する大臣やそれに次ぐ幹部、政府から使命された専門家たちの間延びした対応、だからだと会議を招集し、テレビに映っているも緊迫感のかけらも感じない様子、そしてだらだらと議論するというお決まりのパターンを何度も見せつけられている。

いったいこの国のリーダーかと思えてくる。それでも「頑張っているんです、努力しているんです」と力説する。確かに、従来の慣習に比べれば頑張るも、努力もしているのかもしれない。

しかし、こうした一連の体たらくを見せつけられると、ではいままで何をしていたのかと、過去を追及したくもなる。ほとんど何もしていなかったのではな

知事たちの反乱

そうしたなかで、国民により近い位置にいる知事たちは、国の統制にたいして「反乱」を起こし始めているように見える。真正面突破ではないが、明らかに知事たちの発言や行動に変化が見られる。これまでは明治維新以来の形骸化した「中央集権体制」が生きていた。そのため、知事たちは自主性や独自性を殺されていた。しかし今般、形あっても中身なく有害な「中央集権体制」は今後生き残ることはむずかしいだろう。ぜひ変わることを期待したい。何もかも国が決めるというおごり高ぶった姿勢、その逆に、危機時にあつて的確に判断し、リードしていかない姿をさらすことで、今後「地方分権」が本物になつていくのを期待したいものだ。

東日本大震災でも同じように、地域のことは地域に委ねればよいものを、一律に決め、一律に押し付けるやり方が、今度こそは消滅することを願う。

収拾後にリーダーとメンバーの関係再構築

東日本大震災の時は、東北と関東の一部だけが被災して、全国的には被災意識は深く共有されなかった。

しかし今回は、緊急事態宣言が全国に出されたので、全国の問題であり、国民が同時に事の成り行きを見ている。そして失望している。いや失望を通り越して怒りに変わっているかもしれない。

人類の歴史のなかで、大きな疫病が大流行してなにかやり過ぎた後は、それまでの社会構造や価値観、家族観さえも大変化を遂げるようだ。

リーダー選出方法や政党のあり方改革

これにならば、この国のリーダーと国民の関係も大きく変化していくだろう。いままで変わらなかったのがおかしかったのであり、この新型コロナウイルスを契機に大変化を遂げて欲しい。リーダー選出方法や政党のあり方改革、そして新たな政党出現も期待したい。そして新しい日本に生まれ変わって欲しい。

==== DVD 広告 【涌谷 7000 年の歴史】 ====
宮城県北部にある小さな田舎町である涌谷町。しかしこの町は古代史研究にとって非常に興味深い町でもある。日本古代史の激動の時代の痕跡がいくつも残っている。それを再発掘した映像の DVD を紹介。



涌谷
7000年の歴史
—古代の激動の歴史のなかへ—
DVD VIDEO

【涌谷 7000 年の歴史】
涌谷町には実に 7000 年の歴史がある。この長い歴史を代表的な 5 つの歴史遺産であらわし、地元涌谷高校生 4 人が文化財保護職員のリードで学習していくプロセスを撮った映像。深く学習していくにつれ町の歴史という枠組みを飛び越え、日本という国家が出来ていく古代の激動の真ただ中にタイムスリップしていく。映像は 117 分の長編。
DVD 販売中 3300 円 (税込)
送料無料 問合先：株式会社遊無有 mail : y.s.yumuyu@ozzio.jp



長根貝塚



横穴古墳



日本初の産金

新型コロナウイルスだけじゃない この千年の疫病の歴史

人間はいつも疫病とともに歩んできた、新型コロナウィルスだけが「未曾有」の疫病ではないのだ!

新型コロナウイルスで世も末のような騒ぎ

まずこのウィルスの感染について軽視するつもりはまったくないし、自粛要請もきちんと守り、不要不急の用事がなければ自宅に閉じこもり状態を続けている。誤解なきように願いたい。しかし、と言いたい。テレビはこの三か月ほど、どの局も新型コロナ関連番組ばかり。国民を洗脳でもする気なのかと疑いたくなる。むしろこの大騒ぎの方がより大きな社会病理なのではないかと思えるほどだ。そこでこの記事では、新型コロナウィルス以外の、人類がこの千年の間に経験した疫病についてその概略

の歴史を振り返ってみようと思う。それらの疫病と今般の新型コロナウィルスを比較してみるといろいろ参考になるのではないかと。

ペストの歴史

新型コロナ禍からの連想なのか、ヨーロッパで甚大な被害を出したペストと比較するような動きがある。そして作家のアルベール・カミュの『ペスト』がかなりの売れ行きだということ。どうしてそれほど多くの人が読みたいと思ったのかは知らないが、興味深い。このペストは十四世紀のヨーロッパでまん延し、多くの人々を死に追いやった。身体をあちこちに黒い斑点が現れることから『黒死病』と名づけられ恐れられた。ネズミやノミが媒介したが、咳きや唾液から感染する『肺ペスト』もあった。最近の研究では、十四世紀のヨーロッパ人の六割が死んだとされる。昼夜を問わず、道端でも耕作地でも家の中でもほとんど人が死んでゆく。それも三日以内とか数時間で。あまりにも身近で多くの人が死んでいくので、親が子を捨てたり、妻が夫を捨てたり、果ては死者を引う習慣も消滅したという。

に再来したという。まさにとんでもない疫病である。当時はペストに対策がなかった

これだけ長期に亘りヨーロッパにまん延しても原因がまったく分からず、疫病のなすがままであった。怪しげな「大気腐敗説」が出たり、バラの花びらを部屋に撒いたり、香料を焚いたりしたというがまったく効果はなし。またユダヤ人犯人説が広まったりもした。当時は有効な治療方法が見つからなかったのである。日本では十九世紀末から二十世紀初頭にペストが流行したが、ペスト菌の発見者の一人である北里茂三郎の指導により千九百二十六年以降の発生がないという。防止対策は、ペスト菌に感染したネズミやノミにまかれぬようにする、また空気中に漂うペスト菌を含んだ飛沫を吸い込まないということだが、とにかく発見までに長い時間を要した。

ン病などもある。双方ともかなり伝染力が強い疫病であった。

梅毒・エイズ

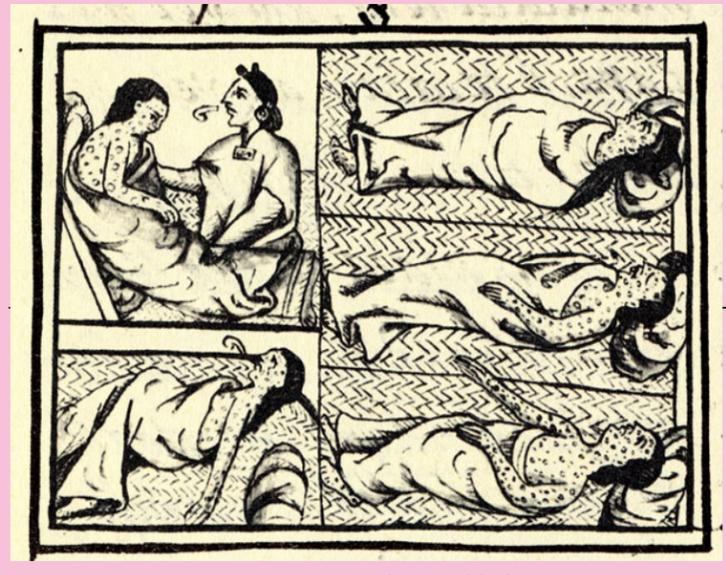
性病である梅毒は十五世紀に突発的に出現したと言われているが、もともと古くから存在していたとも言われている。コロンブスがアメリカ大陸から持ち帰ったという話もある。中国では千五百年頃に流行した。日本でも流行したが、その前に琉球王国で大流行したとも言われている。日本では千五百年前に記録に初めて登場するが、加藤清正や前田利長などの武将が梅毒で死んだとされている。国外では、シューベルト、シューマン、ニーチェ、ス

メタナ、マネ、アル・カボネ、モーパッサン、ボードレールなどがいる。現在は抗生物質での治療が有効であるが、抗生物質のない時代には、確実な治療方法はなく、たくさん死者を出した。一方、あまりにも有名なエイズは千九百八十三年に初めて発見された新しい病気である。

サルスの免疫不全ウィルスが突然変異によってヒトへの感染力を獲得しての病気である。以前は同性愛者や麻薬患者だけが感染すると言われていたが、現在では誰でも感染すると改められている。結核感染率は高ければ抜けて日本が高い



中世ヨーロッパのペスト



アステカの絵：天然痘

た病気である。結核菌がコッホにより発見されたのは千八百八十二年だが、その歴史はかなり古い。紀元前一〇〇〇年のエジプトのミイラにも痕跡があるし、一世紀前半のエルサレムの遺骨からも見つかっている。紀元前二百年前後から始まる中国の前漢時代でも見つかっている。

最近の研究では五千年前の上海の遺跡で発見された結核の発症の痕跡が世界最古という。日本では弥生時代中期の遺骨から見つかっている。このように結核は世界中で、非常に古くからある病気である。興味深いデータがある。それは日本人の結核罹患

率が世界中で飛びぬけて高いということがあがる。なぜなのだろう。

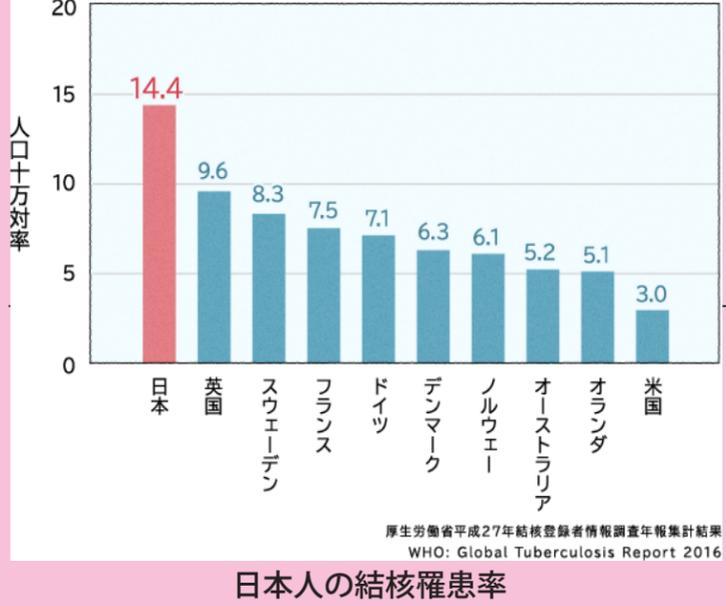
疫病はみな未曾有

このように見てくると、疫病とはすべて「未曾有」の病気である。突然現れて、甚大な被害をもたらす。しかも発生が予測できない。そして原因が判明し、有効な対策が分かるまで、ずっと疫病にされるがままであり、何だか分からないが、突然どこから降って湧いてくる、それこそ「疫病神」である。人間の無力を思い知らされるものである。この点では、今般の新型コロナウイルスはワクチンの開発が可能であり、開発は時間の問題との見方が大方の見方であるから、これ

まで見た疫病に比べればまだしも救われる。出口の見えない疫病ではないのだ。

疫病と自然克服

東日本大震災の時も痛切に感じたが、人間は自然を克服など出来ないのではないか。歴史上、次から次に登場する疫病をみるにつけ、どんなに科学が進歩しても、疫病とは人間がその発生を最初から予防できるものではないと思えるのだ。ただし、発生してから、必死にその原因を突き止め、有効な対策を立てるのは「現代の科学」しかないのも事実である。そうしたツールで疫病に対抗するしかない。そのとき、自然を克服するなどと思いがらならない。



日本人の結核罹患率

とである。大原則として、人間は自然にはかなわないという思いをいつも保持しておくことが必要ではないか、そう思うのである。科学ですべて克服するなどというのは幻想ではないのか、そんなことも感じるのである。

最後に

これまで見た疫病の歴史に学ぶべき非常に重要なことがある。それは、疫病発生後には、伝統的な社会や家族構造を破壊し、新たな社会や家族像が出現し、またキリスト教の価値観をも変化させたということである。今般の新型コロナウイルスを乗り越えたときにはどんな新しい社会が出現するのか非常に興味深い。